

特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会（認定NPO）

2007年度事業報告書

（2007.4.1～2008.3.31）



音楽コンテスト地方予選で優勝したチアシム小学校の子どもたち（2008.3.4）

目次

2007年度事業の要旨	2
● 各種事業の報告	
学校建設事業	4
教育支援事業	7
ボランティア派遣事業	12
啓蒙活動（広報啓発）事業	14
運営基盤拡充	16
● 各種事業の詳細資料	20
● 会計に関する報告	
2007年度収支計算書	25
2007年度貸借対照表	26
2007年度財産目録	27
監査報告書	28



特定非営利活動法人
JHP・学校をつくる会
JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER

2007（平成19年度）事業の要旨



1993年秋に「カンボジアのこどもに学校をつくる会」として発足した当会は、2007年9月で**15年目**に入りました。今年度はこれを記念して、15周年記念式典を開催し、対外的に当会の存在をアピールすることができました。

1年で1校を目標にはじまった学校建設は、2008年度に完成予定の着工分を含めると**200校**を超えています。「200棟目は600人で建設しよう！」とはじまった募金運動は、お蔭様で予定以上の賛同者が集まり、2008年8月27日の贈呈式に向けてツアーの準備も着々と進んでいます。

当会は、2004年1月1日付けで19番目の認定NPO法人として国税庁より認定され、今年度は3回目の再申請も無事にクリアしました。この結果、寄付者の皆さまは、当会に寄付をくださることで控除の特典を得られ、当会は寄付金と寄付件数を前年度より増やすことができました。また、遺贈という形で寄付を頂戴する機会もありました。

2007年度の事業は、学校建設、教育支援、ボランティア派遣、啓蒙活動（広報啓発）事業ともに、事業方針として掲げた10項目に沿って、順調に事業を展開することができました。

学校建設事業は、今年度27棟124教室の実績をあげ、内訳は**小学校15棟70室（うち1棟は音楽棟）、中学校12棟54室（うち1棟は図書館）**となりました。また、生徒用の机椅子は**30000セット**を寄贈しました。受益者の数は、**生徒1万7935名、教師534名**となり、当会が目的とする教育環境の改善に貢献することができました。同時に、衛生施設の整備として**トイレ20棟89室、井戸5基**を設置することができました。

音楽教育支援では、教師養成のためのワークショップ

とフオローアッププログラムを展開した結果、シアヌークビル市の小学校から**16名**の教師が修了し卒業しました。過去も含めワークショップに参加した教師は各地の学校で音楽授業を実施しており、その数は2008年3月末現在**109校**（小学校87校・中高14校・教員養成学校8校）と増加傾向にあります。

また、音楽教育の成果披露の場として、4回目となる音楽コンテストを開催しました。今年度は**過去最高の75校**が参加し、予選は5市県で8回実施しました。決勝では、小学校部門ではブノンペン市サクラクバルチュロイ小学校、中学校の部ではブノンペン市チュロイチョンバー中学校が優勝しました。また、本年度より、全国の教員養成学校（幼稚園・小学校・中学校）の音楽教員を対象とした音楽トレーニングを開始し、**33名**が参加しました。

美術教育支援では、教員対象美術ワークショップに**32名**が参加しました。これにより、当会でトレーニングをうけて、絵画授業を行っている学校は**67校**になりました。また、6地域で開かれた第6回絵画展には、日本の子どもたちの作品も含めて、**78校2657作品**が集まり、期間中**1万5814名**が来場しました。

音楽・美術事業で活用する学用品は、国内で広く募集し、特に、鍵盤ハーモニカは**1190台**を集めることができました。

マーチングバンドの支援では、今年度から新たに1校が加わり合計3校の**小・中学生145名**が参加し、カンボジア各地のセレモニー等で演奏を披露しました。同時に、日本の専門家による短期講習会（5年目）を実施し、技術の向上に努めています。



(左)クメールダンスを披露するCCHの子どもたち。(中央上)カレッジの修了式にて。(右上)プランコ建設中のカレッジメンバー、(下)15周年式典にて成果を披露するマーチングバンドメンバー。

当会支援のマーチングバンドは、10月25日から11月1日、徳島県で開催された第22回国民文化祭とJHP15周年祝賀会で演奏を披露する機会を得て、「ワットプノンサクラマーチングバンド」中学・高校生26名と引率5名の計31名が日本へ招聘されました。

孤児院支援事業では、当会が支援する児童養護施設(CCH:幸せの子どもの家)で生活する子どもは、当初16人から**51名**に増えました。学習面では、授業以外にCCH内で補習授業や語学を学ぶ機会を作り、成績優秀者が多数出ています。職業訓練は、クラブ作り、コンピューター、調理などに取り組んでいます。また、子どもたち独自の取組みとして、ロードショウチームやユースエンジェルチームが更に恵まれない子どもや高齢者を手助けする活動を行うなど、人間的な成長を見せています。また、JHPの15周年式典にはソカ所長と5名の女子が来日しクメールダンスを披露してくれました。

ボランティア派遣事業では、**48名**をカンボジアへ、**2名**をアフリカの毛布配布に派遣しました。
「小山内美江子国際ボランティア・カレッジ」は、第二期目を継続実施しました。座学は(講義)は2007年9月18日から2008年2月20日まで**82回**実施し、**受講生19名**と**聴講生延べ377名**が受講しました。この中から13名が2月24日から3月22日までカンボジア研修に参加しました。第二期は3月29日に修了式を行い、正規要件を満たした**10名**が修了しました。

啓蒙活動(広報啓発)事業では、第3回目となる天満敦子さんのヴァイオリンコンサートを開催し、寄付金が音楽教科書(改訂版)の印刷費に活用されました。また、15周年事業のメイン行事として記

念式典を開催し、超満員の**581名**の来場者と共に節目を祝うことができました。これ以外にも、例年どおり講演会や報告会の開催、外部イベントの出演などを積極的に行い、支援者の獲得や国際協力やボランティア活動の普及に励んで参りました。

プノンペン事務所での啓蒙(広報啓発)事業として欠かせない受け入れ業務は**365名**を対応。これは前年度よりも**100名**以上増加しています。理由として、学校建設の支援者が贈呈式に出席する割合が増えたことが上げられます。今年度も多くの支援者にカンボジアの現状や当会の活動を紹介することができ、継続支援の可能性が広がっています。

運営管理面では、2007年7月に港区浜松町に事務所を移転したことが大きな変化となりました。事務局の体制は東京、プノンペンともに整備されており、ボランティアの活躍と共に、事業の拡大充実に対応できる体制が整いつつあります。年度末には事業評価の勉強会を実施するなど、15年を節目に活動の成果をまとめるための準備も行いました。

しかしながら、新規会員数が当初の目標に達しなかったこと、会員継続率の低減、国際ボランティア・カレッジの聴講生の減少など課題も多く見られました。これらは改善に努めて参ります。

カンボジアの安定した発展の為に、まだまだ諸外国からの支援が必要です。また、世界には教育支援を必要としている多くの国があります。

今後も国際ボランティア団体として、活動の担い手を増やしながら、私たちが出来ることを世界の平和と子どもたちのために続けて参ります。どうか引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。

学校建設事業



(左上) 木造の老朽校舎、(中央上) 建設前に地域住民と話し合うスタッフ。
(左下) 完成した校舎、トイレ。(右) 継続支援の文具を受ける子どもたち。

(1) 小・中学校建設

今年度は12地域に27棟124室の学校を建設したが、これは設立以来最大の数となった。

これにより、1993(平成5)年の設立以来、年度末までにカンボジア各地で199棟の校舎建設及び贈呈式の完了となった。(ラオス1棟を含む)。

最近では、教育環境の格差を少しでも緩和するため首都プノンペン市から遠く離れた地域での建設が増えているが、特に今年度は北部のプルサット県、バタンバン県、西部スワイリエン県での建設をはじめ広範囲にわたる候補地調査など、一段と活動地域を広げて事業を展開することができた。

今年度は54校の建設要望が寄せられたが、昨年同様プノンペン駐在員が直接現地を調査し、

教室が足りず2部制以上で授業を行っている学校

老朽化により授業の実施が天候等で左右される学校

など優先順位の高い学校から建設を行った。

また、最近の特筆すべき点は、建設対象が小学校から中学校・教員養成学校(師範学校)にまで広がったことである。カンボジアでは、就学率、進級率が徐々に上昇しており、中学校のニーズも非常に高くなってきた為、それらの調査や建設も進めた。

一方で、教師の質の向上を目指した教員養成学校の施設充実を目指し、教員養成学校のニーズ地調査も行っている。

また、当会では引き続き2階建ての校舎や、洪水

被害地域の高床式校舎など、地域事情に合わせた建設を行っている。

これら多様化する建設を行った結果、建築物の規模の拡大・複雑化に直面したが、スタッフ・建設業者・住民の的確な協力体制により事業を進めることができた。

特に、管理体制の強化と建設管理技術の向上もあいまって、最低40年は保障できる質の高い施設が完成し、当会の建築校舎を高く評価する声も聞かれるようになった。

(2) 教員養成学校建設

今年度は実績なし。次年度以降、学校からの要請があり、必要性が高いと判断した場合には建設する予定である。

(3) 専門家による現地視察

2007年9月9日から17日まで、国際ボランティア貯金による助成事業として、当会監事で一級建築士の青野達司氏を派遣し、学校建設に関する監督、指導並びに現状視察を行った。現場監督を行った学校は次の10校。青野氏による指導や詳細報告書を元に、建設業務の改善を図ることができた。

- ① ルッセイプレイ小学校(スワイリエン県・平成19年度国際ボランティア貯金支援実施校)
- ② クロサンチュロム小学校(スワイリエン県)
- ③ コンターナン小学校(コンポンチャム県)
- ④ スレイモンコル中学校(カンダール県)

⑤教員養成学校(コンポンスプー県・平成15年度国際ボランティア貯金支援実施校)

⑥プレイトウル小学校(コンポンスプー県・平成9年度国際ボランティア貯金支援実施校)

⑦アンロントン小学校(コンポンスプー県・平成14年度国際ボランティア貯金支援実施校)

⑧アंकマオ小学校(コンポンスプー県・平成13年度国際ボランティア貯金支援実施校)

⑨マパイブオンカンニヤ中学校(カンダール県)

⑩コラップI小学校(プノンペン市)

ここでは、ルッセイプレイ小学校とプレトウル小学校に関する青野氏の視察コメントの一部を紹介したい。

ルッセイプレイ小学校

全体的な印象としては悪くない。平面形、高さ方向とも設計図通りの寸法で納まっている。廊下の楯下の型枠は外され支柱のみが盛り返されているが一部出入口のところで型枠とも支柱が残されているところがあるので、下に壁のない梁、楯、型持ちの廂のすべての箇所ですべての型枠存置期間を守るようにして欲しい。

プレイトウル小学校

この小学校は1997年の着工前に訪れているが建物を見るのははじめてである。校長はそのときのことを覚えていて話をしてくれた。屋根は木造で焼成瓦を載せ入母屋に小廂付きのカンボジアの伝統的な形をしている。小廂は腕木を出さずに垂木だ

<2007(平成19)年度学校建設事業の実績>

支援学校名	生徒数	教員数	支援内容						備考
			校舎		トイレ		机椅子	井戸	
			棟	室	棟	室			
サンサムヴィッチャーア小学校	660	10	1	5	1	4	125		
ポントウック中学校	410	18	1	5	1	5	125	1	
アンサー小学校	345	8	1	5	1	4	125	-	
トゥナルトウトン小学校	529	8	1	5	1	4	125	-	
ターナック小学校	510	15	1	4	1	3	100	-	
ブーンペン小学校	570	15	1	6	1	5	150	1	
ワットボビセイ小学校	290	9	1	5	-	-	125	-	
コラップI小学校音楽棟	3090	107	1	2	-	2		-	2F
スレイモンコル中学校図書館	1487	35	1	2	-	-		-	
コンターナン小学校	1597	35	1	5	-	-	125	-	
コーキ中学校	1272	40	2	8	1	5	200	-	
クナートウトン小学校	750	20	1	5	1	4	125	-	
ルッセイスロック中学校	269	25	1	5	1	5	125	-	
スレイモンコル中学校	1487	35	2	10	1	5	250	-	
マパイブオンカンニヤ中学校	901	35	1	5	1	5	125	-	
スレイティアニー小学校	713	20	1	5	1	4	125	1	
ルッセイプレイ中学校	232	8	1	5	1	4	125	-	
クロサンクル小学校	316	10	1	4	1	4	100	-	
クロサンチュルム小学校	396	4	1	5	1	4	125		
ストゥントゥルー中学校	181	20	2	9	1	5	225	1	
カムライン小学校	294	10	1	5	1	4	125	1	
チュランクポー小学校	350	7	1	4	1	4	100	-	
ダムナックトラッチュ中学校	661	25	1	5	1	5	125	-	
メーサン小学校	625	15	1	5	1	4	125	-	
合計	17935	534	27	124	20	89	3000	5	

けで支えている。木造ならではの工法である。棟飾りの曲線がほほえましい。瓦のメンテナンスが時々必要らしいが校長が対応しているとのことである。

(4) 既建設校の視察(フォローアップ)

建設会社による保証は3年間で、これに伴って6ヶ月、1年、2年、3年目と建設後のチェックのため現地調査を行っている。

また、チェック時に発見した問題点は、建設会社と話し合い、建設会社、JHP、地域等の分担で補修を行っている。

本年度は29校の視察を行った。プノンデル小学校(2006年7月に1棟5教室を寄贈)を視察し

た際は、ゴミが散らかり、校舎の清掃がほとんどなされていなかった。また、トイレはカギをかけたまま使用されていない状況であった。韓国系NGOの寄贈による白板は取り付け方がひどく、隣の教室に貫通するまで壁に穴を開けられてしまっていた。これは他の多くの学校でも見受けられた。すぐさま学校と協議をし、学校の環境は改善された。白板の問題は教育省の長官に報告をし、教育省から現場への注意呼びかけを約束してもらった。

また、視察以外に、図書等の寄贈を目的に、既設校を訪れることもある。前頁写真右はサマキボンスマイチ小学校(2004年度に1棟4教室を寄贈)への継続支援として図書と文具を贈った時の様子。

(5) 建設後の状況(モニタリング) ～コーキ中学校建設後の状況から～

建設前の状況

2004年に設立された。設立されたと言っても校舎はなく、487名の生徒達はコーキ小学校の教室を間借りして勉強していた。2005年から爆発的に生徒が増え、更に近隣の2つの小学校の教室を間借りして授業が行われた。2006年、世界銀行の支援により、初めて中学校の校舎1棟5室が完成した。しかし、この年に3学年が揃ったため、教室不足は解消されず、さらに教師不足という事態も発生。コーキ小学校の先生を9名ほど借りることになった。その後も授業はコーキ小学校、コーキ中学校、他小学校2校で行われ続けた。

建設後の状況

学校からの依頼を受け、2007年、当会が校舎建設を支援し、2棟8室の新コンクリート校舎とトイレ5室が完成した。これにより、それまで近



隣の小学校で勉強していた生徒も、コーキ中学校で勉強することができるようになった。また、清潔なトイレがあるため、女生徒の出席率もアップ。さらには、他の学校から転校してくる生徒までできた。しかし、依然としてコーキ小学校の1教室を間借りしていること、一部のクラスで人数が50名を超えていること、図書室や実験室がないこと、といった問題が残っている。

現地の声

建設後のフォローアップの一環として、コーキ中学校にて、学校長並びに生徒から次の通り感想を聞いた。

イェム・ニラ校長
40歳 男性(写真左)

建設前の状況

教室不足のため、3つの小学校を間借りして授業を行っていました。3つの場所を毎日巡回して管理するのはとても大変でした。

新校舎建設後の状況

一つの敷地内で全生徒が勉強できるようになり、マネージメントがしやすくなりました。校舎とトイレは質がよく、清潔で、とても気に入っています。



オーン・ラッチャナー(写真中央) 14歳・女性(1年生)

建設前の状況

毎日遠くの小学校まで通うのが大変で、勉強も学校もあまり好きではありませんでした。

新校舎建設後の状況

きれいな学校に通えるのがとても嬉しいです。

感想

前よりも学校に来るのが好きになりました。家からも近くなったし、何よりも、トイレがきれいなのがとても助かります。ここで一生懸命勉強して、将来は先生になりたいです。

ハウ・バラン(写真右) 16歳 男性(2年生)

建設前の状況

通学に時間がかかっていました。机はガタガタで勉強し辛く、トイレは不衛生でした。

新校舎建設後の状況

学習環境がガラリと良くなって勉強しやすいです。トイレも清潔で、使いやすいです。

感想

全校生徒が同じ場所で勉強できるから、友だちが多くできるし、学校に来るのが楽しくなりました。先生はとも教え方が上手なので、勉強がはかどります。

教育支援事業



(左上) 天満敦子さんコンサート寄付金で増刷した音楽教科書。(中央上) 絵画展で大人気のお絵かきコーナー。(左下・右) 音楽コンテスト演奏風景と優勝を喜び子どもたち

(1) 音楽教育プロジェクト

2007(平成19)年度は、シアヌークビル市(メタピアップ郡、プレイヌブ郡)の小学校から16名の教員が「音楽教員育成のための2年間トレーニング」を修了し卒業した。また、音楽授業の成果発表の場として「JHP音楽コンテスト」を開催しており、今年度は4回目となった。

本年度より、全国の教員養成学校の音楽教員を育成するトレーニングを開始し、計33名が受講した。これらの普及の成果として、**2008年3月末現在109校(小学校87校・中高14校・教員養成学校8校)で、当会のトレーニングを受けた教員が、音楽授業を行っている。**

2年間トレーニング参加校調査

2007年度は、新たな音楽トレーニング参加校としてコンポンチュナン県(コンポントライ郡・トゥックポー郡)とタケオ県に焦点を当てて調査を行った。その結果、各地のコア校(地域の核となる学校)を中心として、24校より30名の参加者が決定した。

また、上級トレーニング参加校を対象に行った追跡調査では、トレーニング継続の意思の確認と、参加者の理解度チェックおよびフォローを行った上で、楽器を配布した。配布物は、1校あたり鍵盤ハーモニカ50台・足踏みオルガン1台・タンバリン1個・木琴1台・トライアングル1個・カスターネット10個だった。

音楽ワークショップ(20ページ参照)

当会の2年間トレーニングでは、1年目(初級)

16日間、2年目(上級)14日間、計30日間のトレーニングを実施している。本年度は、初級トレーニングにはコンポンチュナン県(コンポントライ郡・トゥックポー郡)、タケオ県、シアヌークビル市の小・中学校、郡教育局から32名が参加した。また、上級トレーニングには、シアヌークビル市(メタピアップ郡・プレイヌブ郡)の16校より18名となった。

また、2006年度から継続して、プノンペン市教員養成学校(MTTC)にて音楽指導員育成ワークショップを行っている。参加者は、当会トレーニングを修了した者で、将来的には音楽教員を育成する指導員を目指す意欲のある教員18名。

講師はすべてハーン・ラッティラボ氏(王立芸術大学所属)が務めた。

教員養成学校教員対象音楽トレーニング(20ページ参照)

本年度より、全国の教員養成学校(幼稚園・小学校・中学校)の音楽教員を対象とした音楽トレーニングを開始し、33名の教員養成学校教員が参加した。講師はラム・ダラボン氏、テップ・クンティアレット氏(王立芸術大学所属)が務めた。

第4回音楽コンテスト(21ページ参照)

音楽トレーニング参加者および卒業生が音楽授業を行っている学校を対象に、04年度より年1回の行事として「音楽コンテスト」を開催している。2007年度は、5市県で8回の小学校部門地区予選を行い、参加校は75校(過去最高)となった。音楽教育の楽しさや意義を子どもたちのみならず、

開催地域の人々にも知ってもらおう良い機会として位置づけたい。

また、決勝は国立教育大学ホールにて、3月18日に小学校部門、3月19日に中学校部門を開催した。小学校部門ではブノンペン市サクラクバルチュロイ小学校、中学校の部ではブノンペン市チュロイチョンバー中学校が優勝した。

「参加者感想」

● コンテストに参加できてとても満足しています。毎日練習しました。将来は音楽の先生になりたいです。(シアヌークビル市プカーチュクロアツ小学校生徒)

● JHPにこのコンテストを支援してもらえて嬉しいです。ありがとうございます。(コンボンヌプー県サンクムセクサー小学校生徒)

● 優勝できて非常に嬉しいです。このコンテストに向けて、生徒に最善を尽くさせました。講師の指示に従い、何度も練習を重ねた結果だと思います。(ブノンペン市サクラクバルチュロイ小学校教員)

● コンテストに参加できて良かったです。また来年も参加したいと思います。(コンボンチャム県スラガエ小学校教員)

マーチングバンドプログラム(21ページ参照)

ブノンペン市コラップ1小学校とワットブノン中学校の2校で、毎週木曜日3時間、マーチングバンドの練習を行った。11月からは、新たにブノンペン市サクラクバルチュロイ小学校でも毎週木曜日2時間の練習を開始した。コラップ1小学校は鼓笛

隊として、鍵盤ハーモニカと打楽器を中心に練習を行い、ワットブノン中学校はトランペット鼓隊を指し練習している。両校とも、スポーツ大会の開会式や音楽祭など各種イベントにて活躍している。

特筆事項として、10月25日から11月1日まで、徳島県で開催された第22回国民文化祭、JHP15周年祝賀会にて演奏を披露する機会を得て、「ワットブノンサクラーマーチングバンド」中学・高校生26名、引率5名、計31名が日本へ招聘された。また、同期間に地元中学校との交流事業も行った。

マーチングバンド指導

7月23日から27日、9月25日から28日の2回、日本から尾田一夫氏をカンボジアに派遣し、マーチングバンドトレーニングを行った。2回ともワットブノン中学校の日本招聘イベントでの演奏・マーチングを中心に指導していただいた。

(2) 美術教育プロジェクト

追跡調査・画材配布

2007年4月から6月にかけて、昨年度までのプロジェクト参加校58校と新規参加希望校2校、実施県の教員養成学校6校をまわり、授業実施と画材利用状況を確認した。実施校には、日本で集められた支援物資の中から、クレヨン、絵の具、パレット、筆、カレンダー(裏面利用)などをセットにして配布した。あわせて、訪問時には教員対象ワークショップへの参加希望を調査した。

尚、2008年3月現在、2008年度より新規参加2校を加え、67校が本プロジェクトに参加し

ている。

教員対象美術ワークショップ(22ページ参照)

今年度は8月20日から24日までの5日間、ブノンペン市教員養成学校にて実施した。参加者は32名。講師はパウ・ラスメイ氏(王立芸術大学卒)が務めた。

今年度は、追跡調査時に希望の多かった水彩画とデッサンの基礎を中心に進め、3日目にはカンボジア8月隊のメンバーと似顔絵を描きあう交流会を行った。また、すでに絵画授業を行っている学校からプレゼンテーションを行ってもらい、他の教員に参考にしてもらった。

小学校教員養成学校(TTC) 学生対象美術ワークショップ

2007年4月と7月、8月にかけて、2市4県の教員養成学校で学生対象ワークショップを開催した。昨年度までは希望者40名に限定していたが、希望があるTTCでは1学年すべての学生を対象に行った。デッサンの基礎や教材づくりやグループワーク、デザイン画等の指導を行い、TTCで十分な絵画教育ができていないという現状に対して、本ワークショップにより、受講生が教員になってから役に立つと思われる内容を提供できた。

第6回絵画展(22ページ参照)

地方を巡回する絵画展を毎年行っており、今年度は6回目の開催。開催地は、ブノンペン市、シアヌークビル市、タケオ県、コンボンヌプー県、カンダール県、コンボンチャム県の2市4県。

教育関係者、地域住民に美術教育をより身近に感じてもらい、その普及につなげ、絵画展を通して美術教育のみならず、子どもたちの学校教育への参加意欲を高めること、想像力、創造力を伸ばすことを目的に開催している。この絵画展は、毎年恒例行事として各県の教育局や教員養成学校と協力しながら行っており、各地で好評を得ている。

尚、カンボジアと日本の子どもたちの優秀作品を掲載した画集を700部作成し、参加校に配布した。

「来場者感想」

●この絵画展に大変興味を持ちました。子どもの想像力や感覚がよく表現されています。この絵画展を見た生徒たちは、日本の生徒の作品とも比べて、刺激を受けたのではないかと思います。(タケオ県アンメトレイ小学校校長)

●たくさんの友だちとこの絵画展を観に来ることができて嬉しいです。毎年観に来たいです。(シアヌークビル市チアシム小学校生徒)

●他の地域の同級生の作品や日本の生徒の作品を見ることができ、非常によいイベントだと思います。(シアヌークビル市教員養成学校1年生)

●JHPの絵画展に生徒を連れてくることでとてもよかったです。展示作品はとても意義深く、社会や環境、伝統文化や生徒の好みをよく表しています。また会場もとてもきれいです。機会があればまた生徒を連れて来たいです。この絵画展を企画してくれたJHPに感謝します。(カンボジア州プレックタパウ小学校教員)

●素晴らしい作品を仕上げた人たちをすごいと思いました。この絵画展は私達の生活上で多くの気

付きをもたらしてくれました。JHPには毎年この絵画展を継続し、子どもの想像力の成長を助け、カンボジアの発展に寄与して欲しいと思います。(コンポンスプー県ソッカパリー高校3年生)

クラスター(学校群)ミーティング内絵画ワークショップ

本年度より、タケオ県トラムコック郡の2クラスターで、クラスター内で開催される情報共有のためのミーティング内で行われる絵画ワークショップの企画・運営をサポートした。11月から08年3月までの間、1ヶ月に各クラスター1回のワークショップが開催された。

日本の絵画展への出展

美術事業の成果披露の一つとして、プノンペン市ダムコー小学校より26点の作品を浜田子どもアートセンター展に応募し、そのうち6点が会場に展示された。

(3) 衛生教育プロジェクト

今年度も建設後のトイレ、井戸の利用状況を確認し、随時指導を行った。同時に、学校の清掃や校内美化について実践的なアドバイスをを行った。

衛生教育普及のための教本配布

1999年度に作成した当会オリジナルの衛生教本を増刷し、新校舎完成時の贈呈品のひとつとして、合計1530冊配布した。この絵本は小学校低学年が日常の衛生感覚を養う目的で作られた絵本で好評を得ている。

水質検査

2007年度は7基の井戸について、砒素の検査を行った。いずれも砒素は検出されなかったが、シアヌークビルの一基において、大腸菌郡検査試験紙に反応があり、井戸水を直接飲まないように指導した。

(4) 援助物資募集及び海外輸送

物資募集

東京事務所では、年間を通じて海外向けの支援物資の募集を行い、主にボランティアが仕分け作業、楽器清掃、梱包作業を行った。

年間の荷受件数は189件。主な物資として、鍵盤ハーモニカは1190台、リコーダーは675本が集まった。

海上輸送(日本 カンボジア)

2008年2月に、40フィートコンテナ1本分の支援物資(楽器、文具、衣類等)をカンボジアに輸送した。尚、輸送費については、2006年度に呼びかけた輸送費募金の残金及び自己資金により賄った。また、日本国内の物資輸送は共同印刷㈱、共同物流㈱の協力いただいた。

主な持込物資(日本 カンボジア)

カンボジア8月隊、3月隊派遣時に、楽器、文具等の支援物資を持ち込み、各種プロジェクトに活用した。3月活動時には、カンボジアで働いている青年海外協力隊員が利用する楽器輸送に協力した。

支援物資の配布状況

今年度、学校建設及び教育支援事業で配布した物資は次表の通り。

物資	配付数	物資	配付数
鍵盤ハーモニカ	2,085台	手帳	8冊
カスタネット	416個	色鉛筆	270セット
鈴	24個	絵筆	30本
タンバリン	39個	手作りノート	1,200冊
足踏みオルガン	16台	カレンダー	2,400冊
木琴	34台	絵の具	42セット
ソプラノリコーダー	1,075本	バレット	30個
ハーモニカ	940本	クレヨン	648セット
アルトリコーダー	112本	スケッチブック	90冊
大太鼓	5個	ボール	126個
小太鼓	30個	かばん類	375個
エレクトーン	3台	壁掛け時計	128台
トライアングル	16個	世界地図	126枚
ギター	4台	ゴミ箱	128個
ベルリラ	6台	衣類・タオル類	815枚
クラリネット	1個	歯ブラシ	360本
アルトサクソ	1個	ボールペン	29,963本
マーチングキーボード	1台	ノート	45,501冊
シンバル	2個	鉛筆削り	28個
トランペット	3個	譜面台	10台
マイク用アンプ	1台	CDラジカセ	1台
スピーカー	1台	マイク	2台
レターファイル	60冊	マイクスタンド	2台

協働事業の実施

当会は、江東区と海外リサイクル支援協会との協働で、リサイクル品（机・椅子、楽器類等）の募集、整備、輸送を行っている。主に江東区内の学校が破棄する机・椅子を集め、数年に一回コンテナ輸送を行っている。2007年度は6月にコンテナ輸送を行い、シアヌークビルのカンボジア日本友好桜学園に机・椅子を寄贈した。

また、静岡の新富士ロータリークラブの事業として、日本の中古自転車寄贈の話があり、当会が全面的にサポートをした。寄贈先はシアヌークビル市内

の学校で合計230台となった。

(5) 研修生招聘

2007年度は、当会が「熊本県海外技術研修員制度」に推薦したシアヌークビル市チアシム小学校教員のサイ・ガエツト氏（30歳・男性）が招聘され、2007年8月から2008年2月までの7ヶ月間、熊本県芦北町で研修を受けた。

2008年度分として、コンポンスプー県アンロントン小学校教員のキン・ラー氏（30歳・男性）の推薦書及び申請書を熊本県国際課に提出した。

(6) 幸せの子ども家（CCH）運営サポート

CCHの運営状況

2002年11月より子どもが入り始めたCCHでは2006年6月に2棟目（CCHIIと呼ぶ）が近隣に完成し、男子の居住スペースと職業訓練スペースが確保された。

入所児童数は、ゴミ山で生活していた子どもたち16人からスタートし、その後徐々に人数を増やし、2008年3月末現在、6歳から18歳まで51人に増えている。

子どもたちは、所長のメチ・ソカ氏をはじめ、多くのスタッフやボランティアの愛情に包まれ、それぞれの将来の夢に向かって日々努力を続けている。皆いい生徒になり将来立派な大人になりたいと思っている。2007年度の子どもの生活は次の通り。

勉強について

ボランティアから英語、日本語の指導を受けている。また、カンボジア人ボランティアよりクメール語、美術、伝統舞踊等の指導を受けている。ボランティアによる補修の成果もあり数名がクラスで1番の成績を上げている。

2006年8月より、ナルン（男子）が奨学金でシンガポールの高校（UWC）に留学しているが、女子1名が2007年4月からメコン・ユース・ネットワークのタイのプログラムに1年間留学し、人身売買防止のための研修を受けた。また女子1名がプノンペンインターナショナルスクールの授業料スポンサー試験に合格し、通学し始めた。彼女は将来英国の大学へ進学するチャンスを手の中にしつつある。

職業訓練について

裁縫トレニングは毎日行われ、クラフト作りやカバン作りの指導を受けている。完成品を訪問者に販売し、CCH運営費としている。

・コンピュータートレニングは、日本のNPO「ものほし」の事業として実施されてきたが、12月10日CCH敷地内にコンピュータショップをオープンさせ、ウインドウズ、エクセル、パワーポイント等の研修サービスを始めた。

・「ベルギーの100人の友人」の資金提供により16ヶ月間にわたる調理トレーニングコースが実施され、3名が参加している。

トピック

・ロードショウチーム

ドラッグ、児童人身売買、HIV/AIDS等カンボ

アジアの子どもたちをとりまく問題について学び、自分たちで制作した寸劇を、ごみ山や貧しい地域、他の孤児院で上演し、自分で身を守るためのキャンペーン活動を行っている。

・ユースエンジェル

ラヴーがリーダーとなり「アメリカの100人の友人」の資金援助を受け、貧しい老人へ米等食料品を配布する奉仕活動を行っている。現在12人の老人が恩恵を受けている。

・若者の家

カナダのカナダ基金がCCHを卒業した若者が独立するまでの寄宿舎の建設を約束してくれ、当面の寄宿舎を借り上げてくれた。寄宿舎を建設するための土地としてCCHⅡの隣の土地を既に購入してくれている。

運営について

資金面では、サポーター等の寄付に加え、今年度も「連合愛のカンパ」の助成金を受けることができた。また、子ども達の将来の進学に備えて過去の寄付の中から基金を開設した。JHPは2008年も年間約300万円の支援を継続する方針である。

CCHカレンダー作成

今年度はCCHの支援及び広報を目的としたカレンダーを2000部作成し、東京事務所、プノンペン事務所で974部（昨年度は986部）を販売した。今年度は15周年記念祝賀会に600部を記念品とした。残りはCCHサポーターへの特典の他、

支援者拡大のための広報等に活用した。

CCH便り発行

CCHサポーター、支援者への活動報告として、年間2回「CCH便り」（第8、9号）を発行、サポーター向けに子ども達の成長を記す「CCHプロフィール集」を作成した。印刷は富士ゼロックス端数倶楽部にご協力をいただいた。

CCHオリジナルTシャツの販売実績

当会が運営をサポートするCCHのオリジナルTシャツの販売を通じて資金調達を行っている。2007年度は12枚（昨年度は68枚）を販売した。

CCH来日（10月29日～11月1日）

6名（ソカ所長、サンボー、シナツ、セレイ、ソポーン、ナロアット）が来日した。10月30日には国立オリンピック記念青少年総合センターでソカ所長による活動報告会を実施、その後支援者との夕食会を開催。CCHの広報や支援者増加を目指した。また10月31日には日頃ご支援をいただ



ているCCHサポーターへの感謝を込めて交流会を実施。東京タワー見学や昼食会を行った。同日、15周年記念祝賀会でクメール舞踊を披露した。その他にも日本人学生との交流や、東京観光、テレビ局の取材対応など、子どもたちにとって充実した来日となった。

尚、6名の成田～バンコク間の往復航空機については、ノースウエスト航空のエアクーア・チャリテイ・プログラムによるマイル支援でまかなうことができた。



ボランティア派遣事業



(左)毛布を受けとったアフリカのモザンビークの子どもたち。(右)小学校の校庭にブランコを建設するカンボジア8月隊のメンバー。



当会の理念でもある「日本の若い世代への地球市民教育」の実践として、海外ボランティア派遣事業を継続して実施した。今年度はカンボジアに2回、アフリカ(モザンビーク)に1回派遣した。

(1) カンボジア派遣

昨年度に引き続き、8月にカンボジア活動隊、3月に国際ボランティア・カレッジのカンボジア研修として派遣した。

8月派遣では、カンボジア活動隊初となるバツタンボン県への遠征を行った。

カンボジア隊応募数

派遣年月	応募数
2005年度 8月	46 (25)
2005年度 3月	43 (32)
小計	89 (57)
2006年度 8月	50 (36)
2006年度 3月※	14 (8)
小計	64 (44)
2007年度 8月	44 (33)
2007年度 3月※	13 (8)
小計	57 (41)
合計 (2005年度より)	210 (142)

() は女性応募者数

※は国際ボランティア・カレッジのカンボジア研修参加者数

8月隊派遣(2007年7月30日～8月28日)

引率者を含め、派遣者29名。遊具建設地はバツタンボン県のプーンペン小学校、コンポンスプー県のサンサムヴィッチア小学校、コンポンチャム県のコンターナン小学校でブランコ建設を行った(上段写真右)。その他、音楽、美術ワークショップの視察やCCH(幸せの子どもの家)での交流会、他NGO見学としてCMACの地雷除去現場、カンボジアトラスト(義手義足支援)などを訪問した。

国際ボランティア・カレッジカンボジア研修(2008年2月24日～3月22日)

派遣者19名(うち13名がカレッジ生)。遊具

ボランティア派遣者数の実績

年度	カンボジア		ユーゴ		アフリカ		その他	
	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数
1993	30	1	-	-	-	-	-	-
94	71	3	25	4	-	-	-	-
95	37	2	34	4	-	-	-	-
96	65	3	5	1	3	1	-	-
97	62	4	6	2	1	1	-	-
98	53	3	10	3	2	1	-	-
99	50	2	7	1	2	1	-	-
2000	50	2	4	1	2	1	4	1
01	62	2	2	1	-	-	1	1
02	59	2	-	-	2	1	-	-
03	61	2	4	1	2	1	-	-
04	55	2	-	-	2	1	85	4
05	70	2	-	-	3	1	3	1
06	51	2	-	-	2	1	2	1
07	36	2	-	-	2	1	2	1
合計	812	34	97	18	23	11	97	9

建設校はコンポンチュナン県トゥナルルトウートン小学校およびバツタンボン県カムライン小学校。詳細は次項参照。

(2) 小山内美江子国際ボランティア・カレッジ「概況」

2006年度より始まった小山内美江子国際ボランティア・カレッジ(以下、カレッジ)を引き続き2007年度も開講した。2007年度(第二期)は9月15日に開講した。受講生は24名を受け入れたが仕事や学業の都合により受講を辞退した者が5名いたため、最終的には19名となった。カレッジは座学(講義)と実学(現地研修)という構成で実施した。

座学（講義）は、2007年9月18日から2008年2月20日までの期間の火曜日・水曜日の19時～20時30分、土曜日の17時30分～19時。19時15分～20時45分（2コマ）に、83コマ実施した。受講生の出席率は65.9%（1コマあたり約12.7人）、聴講生はのべ377人（1コマあたり約4.5人）となった。

講師は元大使や大学教授、NGO実務者、文化人が務め、自身の専門分野について講義した。

座学部門は体系的・専門的に講義が行われ、一期に引き続き二期目も質・量ともに他に類のないものとなった。

実学（現地研修）は日程をA日程（2008年2月24日～3月22日）とB日程（2008年3月9日～3月22日）に分け、カンボジアにて実施した。現地研修では、炎天下でのブランコ建設を体験したほか、学校贈呈式や音楽コンテスト等のJHP・学校をつくる会のプロジェクトに参加し、独自にラジオ体操や合唱を披露した。また、現地見学の一環として孤児院や日本大使館、JICAや他NGOの事務所やプロジェクト現場、上智大学人材養成センター、アンコール遺跡群、トンレサップ湖の水生活を見学し、実際の体験を通して講義で得られた知識をより深く理解することができた。

カレッジは2008年3月29日に修了式を迎え、要件を満たした10名が修了した。修了者の感想としては「自分ひとりでは経験できないような充実した時間を過ごすことができた」「視野が広がっただけでなく、エネルギーと刺激をいただいた。このエネルギーと刺激を糧に社会に役立つ仕事をしたい」「カンボジアの人々と交流できたことにより、異なる国の人間とでも同じ人間としてともに歩んでいけることを実感できた」「講義を受けてから現地に行ったことで学習したことをより深く理解

することができ、また現地の様々な面を見ることができたのがよかった」等が挙げられた。

カレッジの運営事務は主に事務長と職員の名2名が担当した。運営の状況や方針は塾長・副塾長・各部門長・担当者によって構成される教務会議にて、月に1回程度のペースで検討・決定した。教務会議の内容や決定は理事会に報告し情報の共有を図った。

「次年度に向けて」

座学に関して、部門を3つに分けることで国際協力や国際理解という幅広いテーマを体系的に講義することができた。座学が全て終了したあとに振り返ってみると、部門同士で重複していたテーマもあった。また各部門の中間に開いても内容が重複することや同テーマの講義の実施間隔が開きすぎていたものもあった。第三期では各部門で何を提供するのかというテーマを明確にし、各部門の内容についてもより一層の体系化と講義予定の効果的な構成を図ることで、部門ごとのカラーを確立させ受講生の理解を深める工夫が求められる。

実学については、第二期は内容を盛り込みすぎて過密スケジュール気味となってしまう、せつかくの現地研修の内容が参加者の中で消化不良を起こしてしまった感がある。現地研修の目的を再検討し、内容を絞り込んでいく必要があるだろう。また、カレッジは座学と実学とで構成されているが、これらの内容をどのようにしてさらに関連づけたものにしていくかということが今後の課題でもある。座学と実学の両方を通して受講生に何を得てもらいたいのかということも明確にして、これに沿った形のカリキュラムを作り上げていくことが求められる。運営基盤に関して、収入源は受講生からの受講料、聴講生からの聴講料、会員・支援者からの寄付、助

成団体からの助成が挙げられる。これらのうち、第二期は受講料・聴講料・寄付の合計金額が当初想定していた金額を下回った。これらは、受講料に関しては受講生の定員30名に対し第二期は最終的に19名に留まったこと、聴講料に関しては聴講生の延べ人数が377人（第一期よりも77人減）だったことによるものが大きい。特に聴講生の延べ人数の減少は、広報活動の不十分であったことと会場が複数の場所となったことが原因の一端と考えられる。寄付に関しても、カレッジの内容や意義の周知が不十分だったことは否めない。運営基盤の強化には、会員・支援者の方々にカレッジへのより一層のご理解とご協力・ご支援が必須であり、そのためにも広報活動の充実が求められる。

（3）アフリカ派遣（12ページ写真左）

当会は「アフリカへ毛布をおくる運動」推進委員会の構成メンバーとなっており、毎年毛布収集キャンペーンに参加し、毛布配布ボランティアをアフリカへ派遣している。

2007年度の毛布配布ボランティアは2008年2月7日より16日までモザンビークへ派遣、配布活動を行った。当会からは2名（中島慧、川幡玲子）が参加した。アフリカへ毛布をおくる運動の活動については、24ページの加入団体との提携の項を参照。



啓蒙（広報啓発）事業



代々木公園で行われたNPOまつりのステージで活動を紹介。

当会の活動を広めるために年間を通じてイベント、報告会、講演会の実施、全国の啓発イベントへの参加など積極的に活動した。また、カンボジアでは、支援者の受け入れや活動案内の業務を積極的に行った。

（1）チャリティーイベント

今年度はチャリティーイベントのほかに「JHP・学校をつくる会」設立から15年目に突入したことを記念し祝賀会を開催。両者を併せて359万8970円の寄付が集まった。

天満敦子さんヴァイオリンコンサート

第3回目を迎えた「天満敦子チャリティーコンサート」

「ト」は、JHP東京事務所移転等の都合から例年よりも遅い日程で9月8日開催となった。会場は前年に続き晴海「第一生命ホール」。申込者数は546名。寛仁親王殿下が今回も御忙しいご公務のところ御臨席くださり、秋山ちえ子さん、女優の岩下志麻さん、池内淳子さんも聴衆として楽しみ協力くださった。活動紹介、誘導、カンボジア民芸品や小山内代表著書、天満さんCD販売、楽屋周り担当など、お手伝いくださったボランティアは21名（社会人×10名、学生×11名）。天満さんや皆さんからチャリティーコンサートへ寄せられたご浄財により、カンボジアで初の生徒用音楽教科書を作成した2006年度であったが、実際にその教科書を使用した生徒や先生の声を活かし、早速、今年度は「音楽教科書（改訂版）」を作成できた。

本チャリティー公演に寄せられた寄付金は、まだまだ不足しているカンボジアの教育支援に充てることを目的としている。

十五周年記念祝賀会

十五周年記念事業

10月31日、東京プリンスホテルのプロビデンスホールを会場とし「JHP・学校をつくる会15周年記念祝賀会」を開催。JHPが2007年9月で15年目に突入した記念に加え、1993年、1棟目の「ダンカオ小学校」から継続してきた「学校建設」が、200棟目を迎えること、小山内代表が2006年5月、カンボジア王国より「モニサラボン勲章大綬章」を受章、さらに小山内代表喜寿のお祝いに合わせて記念し開催。本祝賀会開催の5日前には、JHPが支援する音楽教育の中から生まれたプロジェクト「ワットプノンサクラマーチングバンド」が第22回国民文化祭とくしまの国際交流事業

招へい団体として中高校生26名、引率者5名が来日した。各種交流事業での任務を終えた30日に上京。29日に来日したCCH（幸せの子どもの家）の子どもたち5人によるクメール舞踊とMBによる演奏は、JHPの活動を理解し支援くださる方々へ教育支援事業の成果を実感いただくために企画した。乾杯のご発声を寛仁親王殿下が御引受くださり、発起人代表の秋山ちえ子さん、筑紫哲也さん、そして駐日カンボジア大使、相馬雪香さんからお祝いのご挨拶をいただいた。なお総合プロデューサーとしてTBSプロデューサー石井ふく子さん、司会者として俳優の岡本信人さん、熊谷真実さん、JHP応援者アーティストとして藤田朋子さんと桑山哲也さんご夫妻、岸田敏志さんの協力を得た。小山内代表からお礼の挨拶を述べた後、急ぎよ、JHPカンボジアボランティア活動隊有志とCCH5名による「ソーラン」舞踊が披露され勢いももって幕を閉じた。総来場者数は581名。ボランティアとして31名が尽力くださった。

（2）スタディツアー

2007年度は、12月20～26日に実施し、21名が参加した。JHPの学校建設プロジェクト見学、スラム、ゴミ山、NGO見学、プノンペン事務所馬所長レクチャー、CCHや地元小学生との交流会、観光などを行った。

（3）ボランティアコーディネート

プノンペン事務所は、1年間に43回、365名の訪問者を受け入れ、事業見学や贈呈式参加、ボランティア作業などを希望する個人、団体、企業に対して決め細やかなコーディネートを行った。（昨年度より106名増加）

その結果、学校建設やCCHなどへの各種寄付や新規会員の獲得に結びついた。

(4) 機関紙発行 (JHPニュース)

本年度は5月(39号)・8月(40号)・12月(41号)の計3回発行した。発行目標回数4回には達しなかった。尚、印刷用紙は再生紙を使用し、今年度も企業広告枠を設けて印刷費の削減を図った。



内容の充実と読みやすい紙面を目指している会報

(5) 記録集発行

今年度のサブタイトルは『学ぶ喜び 生きる力』。巻頭特集として『小山内美江子国際ボランティア・カレッジ第一期』、『JHP活動報告会の記録』、『あの学校は今：？』を掲載。

今回は巻頭特集を充実させた結果、180ページとなった(前年度より18ページ増)。完成は10月19日。発行部数は4000部。広告は『佼成出版社』、『山田養蜂場』、『日本印刷』、『今人舎』、『集英社』、『大東文化大学』、『東芝』より協力をいただいた。(敬称略、順不同)

(6) ホームページ

昨年度から継続している東京・蒲ノンペン両事務所スタッフによる持ち回り日記、「JHP日記」は週1〜2回更新し、今年度は36回配信した。また、グーグル検索でのヒット数向上と支援者の

拡大を目指し、ボランティアの方々の協力を得て、ホームページのリニューアル作業を行った。(新サイトは5月下旬にオープン予定。)

(7) 広報啓発活動 活動報告会

今年度は4月15日に、アフリカ隊の報告会および2007年8月隊派遣説明会を独立行政法人国際協力機構(JICA)のJICA地球ひろば(東京・広尾)で開催。また、10月14日には2007年8月隊活動報告会をJICA東京国際センターで開催した。また、北海道教育大学旭川校に在籍する学生が結成したボランティアサークル「JHPあさひかわ」のメンバーを中心に、12月22日に札幌で活動報告会を行った。

オリエンテーション

毎月第1土曜日の午前10時からと第3金曜日の夕方18時からの月2回、活動全般を説明するためのオリエンテーションを実施。併せて、JHPの活動に興味を持った方が来訪した際にも随時説明を行った。また、楽器清掃ボランティアを希望される方にも、最初にオリエンテーションを実施し、ボランティア作業の成果がどのようにカンボジアに届くのかを充分理解したうえで活動に参加してもらえるよう進めた。

広報活動・イベント出展等(23ページ参照)

当会の活動紹介や非営利活動推進の募金や物販などを年間46回行った。

講演活動(23ページ参照)

当会代表小山内美江子、副代表今川純子、名誉顧問今川幸雄、役員、事務局員、ボランティアが各種講演、出演、講義、活動報告等を行った。年間総数は58回で担当者は延べ130名だった。うち、代表の小山内は21回に携わった。

その他広報活動

2007年5月に、当会活動を紹介する書籍『カンボジアの赤いブランコ』(樹立社・古舘謙二著・JHP写真協力)が発行された。また、新リーフレット(8月完成)や『JHP・学校をつくる会国際協力15年の歩み』(10月完成)などの広報資料を作成した。

(8) 募金箱運動

使用済みの牛乳パックに募金箱シールを貼り、リユースしながら募金も集める募金箱運動。2007年度は11個を回収し、4万6968円の募金が集まった。2001年度の運動開始以来、累計は72万7564円。

(9) 地域ネットワーク

2002年度より活動の全国展開を目指した「地域サポーター」制度を実施している。事務局はサポーターの活動内容について特定の要望をしていないが、それぞれが主体的にできる範囲の広報活動を展開している。特に基盤が整っている地域は、北海道、大阪など。これらの地域では、報告会やイベント出展などを実施した。今後はサポーター間の情報共有を図りたい。

運営基盤拡充



学校建設 200 棟募金の支援で建設が進む、コンボンチャム県スクン小学校を視察する小山内代表、佐伯理事。(2008年3月)

記念募金」の反響による所が大きいが、このことは、当会の支援の裾野が広がり、その規模が拡大したことを示しており、認定NPO法人として当会の実績が高く評価された成果と思われる。

特に最近では認定NPO法人に対する一般の理解も少しずつ広まり、寄付を申し出るに当り、認定NPO可否かを確認する個人、法人も目立つようになった。また、ここ数年は遺贈と言う形での寄付も年に数件ずつ出始めているのも認定取得後の顕著な特徴である。

(2) 支援者情報

JHP・藤原紀香カンボジア子ども教育基金

2006年5月15日に本基金がスタートし2年を迎える。藤原紀香さん撮影による写真展「Smile Please!」を今年度は静岡、東京ミッドタウン内フジフィルムスクエア、大阪などで開催。本基金に賛同くださる皆さまから寄せられるご寄付、写真展への募金、そして藤原紀香さんご自身から著書『紀香魂』印税を(JHPを含む3団体へ)ご寄付いただいたことで、紀香さん自身が強く望んでいたカンボジアでの学校建設をJHPを通じて実現。この3月には贈呈式出席のため訪カ。CCHの子どもたちとも触れ合い、ゴミ山も視察。2008年3月末日現在、基金JHPへの総アクセス数(2006年5月)は11万2700件を超え、今年度寄せられたご寄付は570万3217円となった。(藤原紀香さんからJHPのほか計3団体への著書印税寄付含む)。

(3) 会員の状況

会員数はここ数年、引き続いて漸減傾向である。今年の新入会員数は前年と比較して、ほぼ横ばいであるが、一方で退会者の増加が目立った。なかでも当初からの会員が逝去、若しくは高齢化して退会したケースが例年に比較して顕著であった。

都道府県別では東京が8人増加した一方、千葉、神奈川、愛知等の都市圏でやや減少した。そのほかの地区は、全般的に減少傾向にあり、総数では26人の減少となった。そのなかで、特別会員が3名増加したのは特筆すべきことといえる。

継続して会員になっていた多くには、会員へのきめの細かい対応が必要になると思われるため、今後、広報活動等から力を注いで会員数の増加を図っていきたい。

(4) 各種助成金申請

申請業務(13件)

今年度は13件申請したところ、国際ボランティア貯金普及センター(啓発事業)、国際ボランティア貯金(学校建設2事業、音楽支援の計3事業)、一食平和基金(学校建設)、JICA地球ひろば(NGO強化のためのアドバイザー派遣)の6件の配分が決定した。不採用は3件、結果待ちは4件となっている。

会員の内訳		人数	前年比増減
継続	特別会員	35名	0名
	個人会員	934名	-30名
新規会員		154名	+4名
合計		1,123名	-26名

助成金による事業(10件)

1. 財源確保

(1) 認定NPO法人関連

当会は、2004年1月に「認定NPO法人」の資格を取得したことにより、寄付された方に対して税制上の優遇措置があたえられるようになった。以来、4年を経過して、今年度は第3回目の再申請の時期に当たったが、特に問題なくさらに2年間の認定期間延長が認められた。

この4年間、寄付総額は安定して年間1億5000万円以上を継続し、認定前の平均1億円前後に対し、50%の増加を見ている。また、寄付件数についても増加しており、特に今年度は前年度よりも667件増えた。これは15周年事業の「200棟

会員の推移

都道府県名	06年度	07年度	増減
北海道	49	51	+2
青森	5	4	-1
岩手	2	2	0
宮城	14	11	-3
秋田	1	2	+1
山形	3	3	0
福島	7	6	-1
茨城	17	13	-4
栃木	8	5	-3
群馬	10	11	+1
埼玉	67	63	-4
千葉	79	73	-6
東京	378	386	+8
神奈川	219	216	-3
山梨	9	8	-1
長野	7	6	-1
新潟	5	3	-2
富山	3	4	+1
石川	8	10	+2
福井	1	0	-1
岐阜	6	5	-1
静岡	49	50	+1
愛知	30	24	-6
三重	6	7	+1
滋賀	3	5	+2
京都	18	15	-3
大阪	29	25	-4
兵庫	16	13	-3
奈良	6	6	0
和歌山	1	1	0
鳥取	0	0	0
島根	2	3	+1
岡山	12	11	-1
広島	9	10	+1
山口	2	4	+2
徳島	1	0	-1
香川	2	2	0
愛媛	4	3	-1
高知	1	0	-1
福岡	23	22	-1
佐賀	1	1	0
長崎	2	2	0
熊本	13	14	+1
大分	4	5	+1
宮崎	2	3	+1
鹿児島	13	13	0
沖縄	2	2	0
合計	1,149	1,123	-26

る。今年度は、15周年記念祝賀会時に、幸せの子どもの家(CCH)の子どもを招聘した際にマイルを使用するなど、国内外の活動時に役立っている。

古本(Book Smile企画)

2006年10月より、古書店うさぎ書林と協力し、古本のリサイクル募金をスタート。当会会員、協力者に広く古本の収集を呼びかけ、うさぎ書林が買い取る仕組み。その買取金はJHPに寄付される。2008年3月末で終了し、現在買い取り額を計上中。協力者に成果を伝えると共に、ホームページ及び機関紙等でも報告する。

今年度は、NGO支援無償資金(学校建設)、国際ボランティア貯金(学校建設・音楽支援の2事業)、大阪コミュニティ財団(学校建設)、国際交流基金、港区NPO活動助成金(以上、国際ボランティア・カレッジ)、連合「愛のキャンパ」(CCH支援)、国際婦人福祉協会(ボランティア派遣)、国際ボランティア貯金普及センター(啓発事業)、JICA地球ひろば(NGO強化のためのアドバイザー派遣)の10件を実施した。

(5) 各種募金活動

海外活動費の一部を募るため、各種イベントや講演会でカンボジア製品、バザー品、書籍等の販売や募金活動を行った。

200棟募金 十五周年記念事業

2007年4月より、1人1万円で600人分の募金を集める活動を開始し、年度内に目標額を達成した。支援先校はプノンペンより75キロ、1時間

半の位置にあるコンポンチャム県のスクン小学校に決定し、1月15日より校舎1棟5教室とトイレ1棟4室の建設を開始、5月30日の完成を予定(16ページ上段写真)。贈呈式は8月27日を予定し、それに合わせて記念スタディツアーを計画中。

(6) 各種収集による財源確保

書き損じ葉書・切手

書き損じ葉書を集めて通信費を削減する運動を継続。2007年度は9万3052円分の通信費の削減に繋がった。(運動開始からの累計は180万1569円)

マイレージ

当会は、ノースウエスト航空の社会貢献(エアケアーチャリティープログラム)の寄付先選ばれている。これまでの総マイル獲得数は153万3058マイル(前年度より35万9058マイル増加)で、残マイル数は52万0558マイルとなっている。

(7) 寄付サイト

当会は、①環境アリーナ研究機構、②国際協力NGOセンター、③ユナイテッドピープル(株)、④ヤフー(株)が運営する寄付サイトに参入し、それぞれ寄付を受けている。

2007年度は、①の「NGOアリーナ寄付サイト」より66万5259円、②の「NGOサポート募金」より5546円、③の「イーココロ」より25万6879円、④の「インターネット募金」より16万3062円の寄付収入があった。

理事会・総会の開催について

会議名 開催日	主な審議事項
第59回理事会 ----- 2007年4月24日	1. 2006年度事業報告及び収支決算 2. 2007年度事業計画及び収支予算 3. 2007年度総会の開催及び報告事項 4. 2007年カンボジア8月隊派遣 5. 国際ボランティア・カレッジ第二期事業計画 6. 理事の選任 7. 職員の採用 8. 当会より派遣するJEN理事の代表理事就任
第60回理事会 2007年5月23日	1. 個人情報保護法に関する規則の制定
会員総会 2007年5月26日	1. 2006年度事業報告及び収支決算 2. 2007年度事業計画及び収支予算 3. その他
第61回理事会 ----- 2007年6月28日	1. 2007年カンボジア8月隊の派遣者変更 2. 15周年記念祝賀会へのCCHの子ども達招聘 3. 職員の採用 4. 職員の退職に伴う餞別金の支給 5. 事務所移転に伴う住所変更 6. 2007年度中期学校建設事業
第62回理事会 ----- 2007年7月24日	1. 監事のカンボジア出張 2. 『第22回国民文化祭 TOKUSHIMA2007』への役員及び事務局派遣 3. 職員の採用
第63回理事会 2007年9月4日	1. マーチングバンド指導者派遣 2. 支援物資用倉庫借り入れの件
第64回理事会 ----- 2007年10月23日	1. 理事に対する国際ボランティア・カレッジ講師謝礼金の支払い 2. 事業活動総合保険の加入 3. 2007年度学校建設事業
第65回理事会 ----- 2007年11月27日	1. 国際ボランティア・カレッジのカンボジア研修計画 2. カンボジア絵画展の企画修正 3. ジャパンプラットフォームへの入会
第66回理事会 2007年12月27日	1. CCHの子どもの日本での研修 2. 2007年度後期学校建設
第67回理事会 2008年1月29日	1. プノンペン事務所就業規則の改定
第68回理事会 ----- 2008年2月20日	1. 2008年度事業計画及び予算案 2. 2008年度前期学校建設事業 3. プノンペン事務所就業規則の改定 4. プノンペン事務所ローカルスタッフの採用
第69回理事会 ----- 2008年3月31日	1. 理事の就任 2. 監事の就任 3. 代表理事及び副代表理事の互選 4. 2008年度前期学校建設の追加 5. 200棟スタディツアーの開催

2. 協力団体との提携

(1) みなとNPOハウス

JHPは、2001年8月より六本木の廃校（旧三河台中学校）に移転し、2007年6月末まで事務所とした。当会入居の1年後から他団体も入居し「みなとNPOハウス」となり、共同のイベントや協会を通して交流を深めてきた。「みなとNPOハウス」は行政とNPOのコラボレーションのモデルとして評価されてきたが、区が行った耐震調査の結果、震度7程度の地震が起ると一部崩壊の危険があることが判明し移転を余儀なくされた。

入居団体はそれぞれの移転先で活動を継続して

おり、NPO事業サポートセンターが実施する事業等で連携が続いている。

(2) その他協力団体

加入団体との連携（24ページ参照）

今年度は9団体に加入し、活動展開の為の様々な情報を得ることができた。詳細は24ページの表に示した通り。

災害時の緊急募金

今年度はバングラデューのサイクロン被害に対して募金活動を行い、同国で活動するNPO法人シヤ

プランニルに対して2万2760円を寄付した。その他、理事会や運営協議会において、当会の災害救援活動の方針や資金的な枠組みについて話し合いを行った。詳しくは2008年度事業計画を参照。

NPO法人「ミュージック・シェアリング」

国連平和大使に任命された世界的ヴァイオリニストの五嶋みどりさんが代表を務めるNPO団体。同会は、西洋音楽を聞く機会に恵まれない途上国の人々に対してコンサート活動を行っている。今回は、五嶋みどりさん等が12月20日から27日までカンボジアを訪問し、各地で弦楽四重奏の演奏を披露した。

当会は、この事業に対して、コンサート実施校の調査、日程調整など全面的に協力した。また、同時期に開催した当会スタディツアー参加者に対して、コンサート会場にて演奏を聞く機会を提供した。

3. 各種会議

(1) 会員総会

2007年5月26日（土）に、高輪区民センター集会所にて会員総会を実施した。

(2) 理事会

今年度は8月を除いて毎月理事会を開催し、種々案件を検討した。開催期日と審議事項は表の通り。尚、主な重要決定事項は、個人情報保護法に関する規則の制定（第60回）、事務所移転に伴う住所変更（第61回）、プノンペン事務所就業規則の改定（第67・68回）等があげられる。

(3) 運営協議会

理事と事務局の情報共有や運営に関する討議の場として、運営協議会を毎週火曜日に実施した。開催回数は30回だった。

(4) 事務局ミーティング

スタッフや定期ボランティアの情報共有の場として、定例的に金曜の午前中にミーティングを行った。

(5) マンスリーミーティング

ボランティアによる月例ミーティングを毎月第1土曜日に実施した。ミーティング参加者が中心になって、事務局とボランティアが情報を共有する機会を創出し、各種イベント参加、広報活動、合宿などを企画実施することができた。また、専門分野、旅行などの経験に参加者に報告してもらう「プチ報告会」を併せて開催し、カンボジア派遣の隊次を越えた交流の場となった。

4. 事業評価

(1) プロジェクト評価勉強会

2008年度の評価実施に向けて、2007年1月より3月まで、理事と職員による勉強会を実施した。実施に際して、JICA地球ひろばの助成金（NGO強化のためのアドバイザー派遣）を受けることになり、NPO法人アユス仏教国際協力ネットワークより2名の専門家を招くことができた。

勉強会の目標として、①評価に関する専門的知識を学ぶ、②評価対象を検討し評価デザインを完成させる、の2つを掲げ、当会の学校建設と教育支援事

業について検討することができた。

2008年度は秋の評価実施に向けて、東京事務所及びフノンペン事務所で勉強会を継続することになっている。

5. 事務所移転

(1) 新事務所移転

みなとNPOハウスの閉鎖に伴い、2007年7月1日より、東京事務所を港区浜松町の宮下ビル4階に移転した。また、支援物資の保管倉庫を確保するために各所に働きかけた結果、最終的に大田区西馬込の保管スペースを借りることができた。

6. 体制

(1) 役員の体制

当会の現役員は一覧表の通り。(2008年3月31日現在)

役職名	氏名
代表理事	笹平(小山内)美江子
副代表理事	二谷英明
副代表理事	今川純子
理事	二木日出丸
理事	佐伯蘭子
理事	山岡修一
理事	佐谷隆一
理事	高橋久
理事	松本伸夫
理事	立石義明
理事	脇田知子
理事	吉岡健治
理事	岩本宗孝
監事	青野達司
監事	中本順夫

(2) 事務局の体制

東京事務所

理事(常勤) 4名、有給職員(常勤) 8名(1名は9月採用、1名は9月末に退職、1名は3月にフノンペン事務所に異動)、定期ボランティア3名の計15名が運営に携わった。

フノンペン事務所

日本人有給スタッフ6名(1名は5月退職、1名は7月採用、1名は3月に東京事務所から異動)、ローカルスタッフ8名の合計14名が運営に携わった。

ボランティア

2007年度は、年間で延べ1155名が国内でのボランティア活動に携わった。前年度の実績は982名であったため、約20%の増加となった。また、活動時の事故や怪我に対して会が補償をする為のボランティア保険に71名加入した。

教員養成学校教員対象音楽トレーニング

期 間	2008年1月14日～18日、21日～25日 計10日間
時 間	午前8時～11時、午後2時～5時
場 所	プノンペン市教員養成学校 音楽室
講 師	ラム・ダラボン氏 テップ・クンティアレット氏（王立芸術大学）
参加者	幼稚園教員養成学校1名、小学校教員養成学校24名、中学校教員養成学校7名、教育省教員養成局1名 計33名
目的	各教員養成学校で音楽授業を行うことができるように、音楽教員を育成する。
学 習 内 容	クメール語の6曲、外国語の曲、基礎理論、歌、鍵盤ハーモニカ、ソプラノリコーダー、指導法等
配 布 教 材	3年間用テキスト・カセット、外国語の歌テキスト、生徒用教科書（クメール語の歌）・カセット各1冊、鍵盤ハーモニカ1台、ソプラノリコーダー1本、アルトリコーダー1本
成 果	①以前音楽の知識の無かった教員も、カンボジア伝統音楽しか知らなかった教員も、音楽の基礎知識を身につけ、各学校で音楽授業を行う意欲が生まれた。 ②教員養成学校の教員同士のネットワークが形成され、情報を共有したり助け合ったりする関係ができた。
課 題	①トレーニング実施前に各学校の校長に会う機会がなかったため、今後教育省とJHPの考えを校長と共有する機会を持つ必要がある。 ②各学校で音楽授業が行われているかどうか、調査を行っていく必要がある。

音楽授業実施校の推移

市・県名	2007年3月	2008年3月
プノンペン市	8校	9校
シアヌークビル市	14校	17校
カンダール県	5校	5校
タケオ県	9校	12校
コンボンスプー県	31校	32校
コッコン県	2校	2校
コンボンチャム県	13校	13校
コンボンチュナン県	3校	17校
バットバン県	1校	1校
プレイベン県	1校	1校
合 計	87校	109校

現職教員対象音楽トレーニング（初級）

期 間	ワークショップ（計10日間）： 2007年9月3日～9月7日、9月10日～17日 フォローアップ（計6日間）： ①2007年11月13日～14日 ②2008年1月9日～10日 ③2008年3月25日～26日
時 間	午前8時～11時、午後2時～5時
場 所	プノンペン市教員養成学校音楽室
講 師	ハーン・ラッティラボ氏（王立芸術大学）
参加者	コンボンチュナン県コンボントライ郡、トゥックポー郡、タケオ県トラムコック郡他、シアヌークビル市小中学校教員、郡教育局スタッフ（計32名）
目的	・音楽教育の理解を深める。 ・音楽の基礎理論・基礎技術の習得。 ・学校での音楽指導に向けて、授業スケジュールの立て方・指導法を学ぶ。
学 習 内 容	クメール語の曲、外国語の曲、基礎理論、歌、鍵盤ハーモニカ、ソプラノリコーダー、指導法等
配布教材・楽器	3年間用テキスト・カセット、外国語の歌テキスト、生徒用教科書（クメール語の歌）・カセット各1冊、鍵盤ハーモニカ1台、ソプラノリコーダー1本
成 果	①10日間のワークショップで習った内容から生徒に指導していくように促し、10月の新学期から各学校で音楽授業を行うことができた。 ②郡教育局が非常に協力的で、各学校への連絡や調査等を行ってくれ、JHPの負担が軽減された。
課 題	外国語の曲の理解度がクメール語の曲に及ばず、理解を助ける教材の作成が必要である。

現職教員対象音楽トレーニング（上級）

期 間	ワークショップ（計10日間）： 2007年8月6日～10日、13日～17日 フォローアップ： ①2007年11月5日～6日 ②2007年11月6日～7日 ③2007年12月5日～6日
時 間	午前8時～11時、午後2時～5時
場 所	ワークショップ：プノンペン市教員養成学校音楽室 フォローアップ：シアヌークビル市教員養成学校音楽室
講 師	ハーン・ラッティラボ氏（王立芸術大学）
参加者	シアヌークビル市メタピアップ郡・プレイヌブ郡より18名
目的	・参加者の音楽知識・技術のフォローアップ。 ・初めての音楽コンテストに向けての指導。 ・音楽授業を行う中で出てくる問題・疑問を解決させ、授業内容を充実させる。
学 習 内 容	クメール語の曲、外国語の曲、基礎理論、歌、鍵盤ハーモニカ、ソプラノリコーダー、指導法等
成 果	トレーニング全日程を終了し、ほとんどの学校で継続して音楽授業が行われている。
課 題	①8月のワークショップの際、病気やリタイア等欠席者が目立ち、今後の音楽教育の継続に不安が残る。 ②音楽コンテストでの発表が練習不足を感じさせる内容で、コンテストの主旨の理解が不足していた。

マーチングバンドプログラム

期 間	2007年4月より2008年3月まで（毎週木曜日）	
時 間	●クラップI小学校・ワットプノン中学校 奇数月14：00～17：00、偶数月8：00～11：00 ●サクラクバルチュロイ小学校 奇数月8：00～10：00、偶数月14：00～16：00	
場 所	クラップI小学校、ワットプノン中学校、 サクラクバルチュロイ小学校（2007年11月より）	
対象者	クラップI小学校児童 約35名 ワットプノン中学生徒 約70名 サクラクバルチュロイ小学校 約40名 合計 約145名	
内 容	鍵盤ハーモニカ、小・中・大太鼓、シンバル、トランペット、クラリネット、ベルリラ、キーボード等の楽器演奏、マーチング等の練習	
年 間 授 業 回 数	クラップI小学校：50回 ワットプノン中学校：85回 サクラクバルチュロイ小学校：20回	
専 門 家 指 導	尾田一夫氏による指導（2回実施） 2007年7月23日～27日、9月25日～28日	
演 奏 績	4月5日	ワットプノン中学校音楽棟贈呈式
	4月7日	プノンペン市スポーツ大会閉会式
	5月7日	プノンペン市スポーツ大会
	5月28日	プノンペン市スポーツ大会
	5月31日	国際子どもデー・ブレイバント（クラップI小学校・ワットプノン中学校）
	6月1日	「国際子どもデー」イベント（クラップI小学校・ワットプノン中学校）
	6月12日	児童労働撲滅イベント（クラップI小学校・ワットプノン中学校）
	6月15日	デング熱対策イベント（クラップI小学校）
	6月22日・26日	カンボジア・ベトナム友好イベント（クラップI小学校）
	6月22日	プノンペン市スポーツ大会開会式
	7月4日	デング熱対策イベント（クラップI小学校、ワットプノン中学校）
	7月5日	プノンペン市スポーツ大会閉会式
	8月15日	2007年8月隊見学・交流会
	9月26日	Cambodia Public Bank セレモニー
	10月1日	始業式
	10月25日～11月1日	日本招聘（ワットプノン中学校26名・引率者5名）
	10月28日	アンサンブルフェスティバル（徳島県阿南市・コスモホール）
	10月29日	由岐中学校交流会（徳島県海部郡美波町）
	10月31日	JHP15周年祝賀会（東京プリンスホテル）
	12月8日	バレーボール大会
12月14日	サッカー大会	
12月25日	クラップI音楽棟贈呈式（クラップI小学校・ワットプノン中学校）	
12月25日	ミュージックシェアリングコンサート	
1月31日	サッカー大会閉会式	
2月29日	ストゥンチュル一中学校贈呈式	
3月18日	JHP音楽コンテスト決勝	
3月21日	トゥナールトゥートン小学校贈呈式	

音楽コンテスト

概要	音楽トレーニング参加者および卒業生が音楽授業を行っている学校を対象に、2005年度より年1回「音楽コンテスト」を開催している。本年度は5市県で地区予選を行い、10市県より88校が参加。各地区予選の優勝校計8小学校と中学校全12校がプノンペン市での決勝に進出した。				
開催都市	プノンペン市、コンボンスプー県、タケオ県、シアヌークビル市、コンボンチャム県				
参加校数		小	中	小養*1	中養*2
	プノンペン市	5	3	0	2
	カンダール県	2	0	1	1
	コンボンスプー県	26	1	0	3
	タケオ県	4	1	1	3
	シアヌークビル市	15	1	0	0
	コンボンチャム県	12	1	0	0
	コンボンチュナン県	1	0	0	2
	コッコン県	1	0	0	0
	ブレイベン県	0	0	0	1
バッターバン県	0	0	0	1	
計	66	7	2	13	
*1：小養：小学校教員養成学校 *2：中養：中学校教員養成学校					
参加校数	地域	開催日	参加人数	優勝校	
	コンボンチャム県	08/1/30	553	チュレイタソー小学校	
	コンボンスプー県（1日目）	08/2/13	386	アンロントン小学校	
	コンボンスプー県（2日目）	08/2/14	373	バーサット小学校	
	コンボンスプー県（3日目）	08/2/15	379		
	タケオ県	08/2/22	252	ブラサトスラケオ小学校	
	プノンペン市	08/2/29	414	サクラクバルチュロイ小学校	
	（カンダール・コンボンチュナン・コッコン）			クダタコイ小学校	
	シアヌークビル市（1日目）	08/3/4	491	チアシム小学校	
	シアヌークビル市（2日目）	08/3/5	185	サクラ学園	
参加人数合計		3033			
決勝大会	部門	開催日	参加校	優勝校	
	小学校部門	08/3/18	8校	サクラクバルチュロイ小学校	
中学校部門	08/3/19	12校	チュロイチョンパー中学校		
課題演奏	①二部合唱（課題曲 小学校「平和のハト」、中学校「クメールの国」） ②楽器演奏（外国の曲テキストより） ③自由演奏（曲目・楽器等各学校で演奏形態を決定）				
成果	①JHPの方針に合致した課題を設定し、プロジェクトの効果を高めることができた。 ②各地域の教育局や教員養成学校と協力して、準備を進めることができた。				
課題	①参加校の交通費や食費を削減し、より地域に根付いたイベントにするためにも、郡レベルでの開催を検討する。 ②学校や郡・県教育局・教員養成学校との協力関係を強め、円滑な運営に努める。				

第6回絵画展 開催概要

参加校	教員養成学校 6校・小学校 59校・CCH(孤児院)・日本の学校		
作品募集テーマ	●教員養成学校 『社会のルール』 ●小学校 『私たちのくらし、環境』		
作品提出校と回収数	地域	校数	作品数
	プノンペン市	10校	382作品
	カンダール県	9校	355作品
	コンボンスプー県	13校	488作品
	タケオ県	9校	337作品
	シアヌークビル市	13校	472作品
	コンボンチャム県	11校	404作品
	幸せの子ども家(CCH)	1校	18作品
	日本	12校	201作品
	合計	78校	2,657作品
展示場所と期間	シアヌークビル市	07/11/30～12/06	
	プノンペン市	07/12/12～12/18	
	タケオ県	07/12/28～08/1/4	
	カンダール県	08/1/9～1/15	
	コンボンチャム県	08/1/23～1/29	
	コンボンスプー県	08/2/14～2/20	
	表彰式・受賞者対象スタディツアー	2008/3/18	
来場者合計	15,814名		
成果	<p>①各市県の教育局ができるだけ多くの小中学校の生徒を絵画展視察に招待し、また音楽コンテスト会場で作品を展示したりした結果、できるだけ多くの見学者を得ることができた。</p> <p>②ほとんどの TTC で生徒が絵画展の運営の補助を行ってくれた。</p> <p>③多くの参加者から好意的な反応を得ることができた。</p>		
今後の課題	<p>①各市県の絵画展会場は、本プロジェクト参加校から徒歩圏内の学校しか原則的に招待されていないため、遠隔地の学校にも絵画展視察ができるよう、対策を検討する。</p> <p>②賞や審査方法、表彰式の運営方法を改善する必要がある。</p> <p>③絵画展見学者は「お絵かきコーナー」で楽しく絵画を体験できるようになっているが、静かに絵を鑑賞する重要性も知らしめていきたい。</p>		

美術授業実施校の推移

市・県名	2007年3月	2008年3月
プノンペン市	11校	12校
シアヌークビル市	11校	13校
カンダール県	8校	9校
タケオ県	8校	9校
コンボンスプー県	12校	13校
コンボンチャム県	10校	10校
コンボンチュナン県	0校	1校
合計	60校	67校

教員対象美術ワークショップ

期間	2007年8月20日(月)～24日(金)	
場所	プノンペン市教員養成学校(MTTC)	
講師	パウ・ラスメイ氏(JHP契約講師)	
対象者	2特別都市・7県より33名 プノンペン市、カンダール県、コンボンスプー県、タケオ県、シアヌークビル市、コンボンチャム県、コンボンチュナン県	
目的	<p>①これまでの参加校から希望する教員(過去の参加経験は問わず)を対象とし、各校での絵画授業をより充実したものにするようにする。</p> <p>②絵画授業をはじめとする情操教育の重要性を知らしめる。</p> <p>③地域で中心となって教え広める事が出来る、または意欲のある教員に対してサポートを行う。</p> <p>④本トレーニング修了教員が、各々のクラスター、あるいは地域で他校の教員に教える事ができるようになり、教員自身が中心となって絵画教育活動を実践していく事が期待される。</p>	
講義内容	1日目	オリエンテーション、絵画教育の意義、絵画授業に関するプレゼンテーションとディスカッション、質疑応答、クラフト作成
	2日目	デッサンの基礎
	3日目	デッサンの基礎、2007年8月隊との交流会
	4日目	彩色の基礎
	5日目	屋外での写生、閉会式
成果	<p>①6校33名の絵画教員を育成することができ、今後各学校でより多くの生徒が絵画教育に触れることが可能になった。</p> <p>②多くの教員(32人中27人)が各クラスター内での絵画教育普及に関心を示した。</p>	
改善点	<p>①5日間で学習できる内容に限界がある。来年度以降、限定したトピックをより深く学習するワークショップにする等、検討する必要がある。</p> <p>②本年度ワークショップに参加を希望した教員が30名を超え、選出されなかった教員への連絡ミスがあり、2名定員を超えて受け入れざるを得なかった。また、ワークショップ参加教員の中に、本年度で契約終了した教員も含まれていたことが分かり、参加者の選出方法を改善する必要性を感じた。</p> <p>③中学校教員不足のため、小学校教員を3ヶ月間トレーニングして、中学校へ異動させるケースが増えており、音楽・絵画プロジェクト共にその影響を受けている。各校2名以上の教員をトレーニングし、いずれかの教員が中学校へ異動することになって、絵画教育を継続できる体制にする必要がある。</p> <p>④クラスター内での普及活動を行う講師を育成するためにも、本トレーニングよりも発展的な内容を含み、各地域で絵画教育普及トレーニングの講師を育成するためのトレーニングを開催する必要がある。</p>	

主な講演活動の実績

月日	講演名、場所等
4/15	JHP 活動報告会 (東京)
5/15	△仙台市立台野原中学校
5/17	△舞鶴市立若浦中学校
5/17	△山形市立十中学校
5/19	熱海国際協力アート展トークショー (静岡)
5/22	県立三島北高校同窓会 (静岡)
5/22	△京都市立大原野中学校
5/23	△岐阜市立東長良中学校
5/24	△岐阜市立厚見中学校
5/25	㈱リコー社会貢献クラブ講演会 (東京)
5/29	平和のための戦争展
6/2	ネパール NGO ネットワーク総会 (東京)
6/6	京都グローバルワイズメンズクラブ例会 (京都)
6/7	△熊取町立熊取中学校
7/3	△藤沢市立高倉中学校
7/26	鹿児島県小中学校養護教諭教育研究会講演 (鹿児島)
9/1	富士ゼロックス端数倶楽部ワークショップ 説明会 (東京)
9/3	全国商工団体連合会講演会 (静岡)
9/18	ヤヨイ食品講演 (東京)
9/24	協力隊3万人突破記念シンポジウム (東京)
9/29	中部大学第一高等学校 (愛知)
10/4	藤沢市立羽鳥中学校 (神奈川)
10/8	二宮市教育委員会生涯学習センター主催文化講演会 (神奈川)
10/11	藤沢市立羽鳥中学校 (神奈川)
10/14	JHP 活動報告会 (東京)
10/20	東京未来大学『未来祭』(東京)
10/26	甲府市立東高等学校講演 (山梨)
10/29	美波町立由岐中学校交流事業 (徳島)
10/30	CCH (幸せの子どもの家) お話会 (東京)
11/1	スマイルエフエム出演 (埼玉)

月日	講演名、場所等
11/3	稲城市立長峰小学校 (東京)
11/5	△熱海国際交流協会 NPO 訪問
11/8	群馬社会福祉大学講演会 (群馬)
11/12	コープとうきょう講演会 (東京)
11/12	△東京都立広尾高校
11/14	△佐野市立葛生中学校
11/17	茨城キリスト教大学創立 40 周年講演会 (茨城)
11/21	武蔵野工業大学付属中学・高校 (東京)
12/2	京都アーティストサミット (京都)
12/3	大東文化大学外国語学部講義 (埼玉)
12/13	神奈川県立鶴嶺高校 (神奈川)
12/17	美濃加茂市立太田小学校 (岐阜)
12/22	JHP 活動報告会 (北海道)
1/3	ラジオ深夜便出演 (東京)
1/10	田園調布学園大学 (東京)
1/15	風越建設講演 (神奈川)
1/21	船橋翼ライオンズクラブ例会 (千葉)
1/24	スマイルエフエム出演 (埼玉)
2/2	神奈川九条の会講演 (神奈川)
2/2	ワンワールドフェスティバル 2008 (大阪)
2/7	銚田市立銚田南中学校 (茨城)
2/8	NTT 東日本労働組合カボジツアー事前勉強会 (東京)
2/15	港区立六本木中学校 (東京)
2/24	国士舘大学シポジウム『アジアの教育現場と国際協力』(東京)
3/1	京都グローバルワイズメンズクラブ 15 周年記念式典 (京都)
3/3	イオンファンタジー政策発表会 (千葉)
3/7	茅ヶ崎市立東海岸小学校 (神奈川)
3/11	国際建設技術協会 NGO 報告会 (東京)

※△は JHP 事務局を訪問した学校を示します。

主な広報・物販・募金活動の実績

月日	内容 (場所)
4/15	JHP 活動報告会 (東京)
4/28	第 78 回メーカー中央大会 (東京)
5/13	つくばフェスティバル 2007 (茨城)
5/17~21	国際協力アート展 (静岡)
5/20	杉並ピースフェスティバル 2007 (東京)
5/22	経済同友会イベント (東京)
5/22	県立三島北高校同窓会 (静岡)
5/25	㈱リコー社会貢献クラブ講演会 (東京)
5/29	平和のための戦争展 (神奈川)
5~6 月	NPO ハウス校庭フリーマーケット (東京)
7/1	北海道 NGO フェスタ (北海道)
7/2~13	港区ボランティアセンター活動パネル展 (東京)
7/7	北海道国際協力フェスタ 2007 (北海道)
7/21	JCBL10 周年記念イベント (東京)
8/15	大田区政 60 周年記念『第 7 回平和祈念コンサート』(東京)
8/17~19	港区助成事業活動紹介パネル展 (東京)
8/17~19	ライジングサンロックフェスタ (北海道)
9/8	天満敦子チャリティーコンサート (東京)
9/8	ふれ愛まつりだ、芝地区 (東京)
9/22, 23	千葉日本大学第一中学・高等学校『習陵祭』(千葉)
9/29	中部大学第一高校学園祭「一高祭」
10/6, 7	グローバルフェスタ JAPAN2007 (東京)
10/6, 7	横浜市立東高等学校 (神奈川)
10/7	RKK 一乗祭 (東京)

月日	内容 (場所)
10/8	二宮市教育委員会主催文化講演会 (神奈川)
10/20, 21	NPO まつり (東京)
10/20	東京未来大学学園祭「未来祭」(東京)
10/27, 28	横浜国際協力フェスタ 2007 (神奈川)
10/31	JHP15 周年記念祝賀会 (東京)
11/3, 4	鶴見女子中高等学校祭「光華祭」(神奈川)
11/9, 10, 11	旭川教育大学学園祭「六稜祭」(北海道)
11/12	コープとうきょう講演会 (東京)
11/17	茨城キリスト教大学創立 40 周年講演会 (茨城)
11/23	スペシャルオリンピックス東京チャリティラン (東京)
11/28	国際婦人協会バザー (東京)
12/1, 2	京都アーティストサミット (京都)
12/3	オタワ条約 10 周年記念イベント (東京)
12/5~9	俳優座劇場『天国に行って 3 つめのドア』(東京)
12/22	JHP 活動報告会 (北海道)
12/23	和泉妃夏 一人芝居 (東京)
1/27	新宿シティハーフマラソンバザー (東京)
2/2	神奈川九条の会 (神奈川)
2/2, 3	ワンワールドフェスティバル (大阪)
2/16	第 17 回旭川生涯学習フェア地球市民村 (北海道)
2/27	JTB 西日本『にっぽん演歌の夢祭り』(大阪)
3/16	北海道教育大学旭川校付属中学校音楽部定期演奏会 (北海道)

※この他にも、全国各地のイベントに出展し JHP の活動を紹介しました。

加入団体との提携

当会が加入している各団体における活動実績は以下の通り。

団 体 名	J E N
2007年5月1日よりJHP理事の吉岡がJENの共同代表に就任した。2007年度の復興支援活動地域は新たにスーダンが加わり、アフガニスタン、イラク、パキスタン（地震）、スリランカ（津波被災者および停戦による帰還民の定住支援）の5カ国および中越沖地震被災地における復興支援の合計6ヶ所であった。2008年には引き続き支援活動を実施している上記の6ヶ所のほか、シリアでイラク難民支援を新たに始める予定。	
団 体 名	地雷廃絶日本キャンペーン（J C B L）
<ul style="list-style-type: none"> ・代表の小山内が世話人、七條が運営委員を継続。 ・国内でのイベント主催及び出展、啓発活動に協力。7月にはウガンダからICBL大使のマーガレット・オレク氏を招いて、JCBL10周年イベントを開催。12月にはオタワ条約10周年を記念してイベントを開催した。 ・『ちょうちょキャンペーン』（オタワ条約未加入国へのメッセージの収集、大使館等への進呈）に協力。 ・当会の自主的活動として、地雷Tシャツを年間267枚販売し53,400円をJCBLに寄付した。（下表参照） ・ノルウェー政府やクラスター兵器連合などを中心に、世界的にクラスター爆弾禁止条約制定の動きが大きくなってきたことを受けて、『オスロ・プロセス』の国際会議に積極的に出席。また、国会議員、外務省、防衛省とも報告会や勉強会、話し合いの機会を数多く設け、日本政府が求められている牽引役としての役割の重要性をアピールした。さらに、クラスター爆弾禁止に向けて、日本政府に対して署名活動も行的、内閣府に提出した。 	
団 体 名	アフリカへ毛布をおくる運動
2007年度の収集枚数は114,430枚、配布枚数は122,500枚。配布先はエチオピア、ジブチ、ウガンダ、マラウイ、モザンビーク、コンゴ、ソマリア、スーダンの8カ国。なおアフリカへ毛布をおくる運動は活動開始以来25周年になる2009年を機会に終了する方針が決定された。当会の関わりについては、13ページのボランティア派遣事業の報告を参照。2008年度の毛布募集チラシは欄外Aの通り。	
団 体 名	NPO事業サポートセンター
<ul style="list-style-type: none"> ・代表小山内が代表理事の一人。 ・NPO事業サポートセンターが主催する「NPOまつり2007」に出展した。事務局中込が実行委員として関わった。 	
団 体 名	国際協力NGOセンター（JANIC）
<ul style="list-style-type: none"> ・各種通知やメール等で国際協力に関する重要な情報を受け、活動を充実させることができた。 ・当会のボランティア募集、イベント情報、求人情報などの情報を掲載することができた。 ・ホームページ上で寄付を呼びかける寄付サイト（NGOサポート募金）に継続参加した。 	
団 体 名	港区国際交流協会
会報等で港区に関する情報を得ることができた。また、交流協会の会報に『国際ボランティア・カレッジ』のチラシを同封してもらったことがきっかけとなり、港区内の受講生を得られた。	
団 体 名	教育協力NGOネットワーク（JNNE）
教育分野における国連ミレニアム開発目標「2015年までに、全ての子どもが男女の区別なく初等教育の全過程を修了できるようにする」などの進捗状況を、ユネスコは毎年モニタリング・レポートとして発表している。JNNEは国際協力機構（JICA）と共同で昨年に引き続き「万人のための教育（EFA）グローバル・モニタリング・レポート2008年要約版」を翻訳発行、JHPのスタッフも分担翻訳に加わった（欄外B参照）。小学校に行けない世界の子どもは今なお7,200万人もおり、このままでは2015年までに58カ国で初等教育の完全普及が不可能とされている。2008年、日本はG8の議長国とEFA-FTIの共同議長国を務める上、TICAD IVも国内で開催される。国際問題への関心が高まるこの機会に、JNNEはEFA達成に向け、教育協力の重要性を広く市民社会に訴え、更なる理解と参加を働きかける。	
団 体 名	北海道NGOネットワーク
札幌を中心とした地域の情報収集、他団体との情報交換を行うことができた。	
団 体 名	カンボジア市民フォーラム
<ul style="list-style-type: none"> ・2007年4月1日に実施されたカンボジア地方選挙の監視員として市民フォーラムから10人が参加した6人は日本から出発、4人は現地駐在員。当会より吉岡理事が3月27日より4月2日まで監視活動に参加。4月21日早稲田奉仕園で報告会開催。 ・2008年1月10日アジア基金と共催で「カンボジアの民主化と2008年国民議会選挙」というテーマのセミナーを開催した。 ・2008年7月27日に実施されるカンボジア国政選挙の監視活動にカンボジア選挙監視NGOであるコムフレルと協力して参加するための準備を進めている。 	

<地雷Tシャツ販売数と寄付金>

年 度	枚 数	寄 付 額
1998（平成10）	327	65,400円
1999（平成11）	369	73,800円
2000（平成12）	548	109,600円
2001（平成13）	314	62,800円
2002（平成14）	695	139,000円
2003（平成15）	342	68,400円
2004（平成16）	540	108,000円
2005（平成17）	200	40,000円
2006（平成18）	291	58,200円
2007（平成19）	267	53,400円
合 計	3,893	778,600円

